

(様式2)

# 令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和8年(2026年)3月19日

札幌市立藤野中学校

## 1 学校経営11の重点

目指す学校像	本年度の重点
1 子どもたちの「生きる力」を育む学校	○確かな「学び」を育む授業づくり ○生徒たちが生き活きと活動する教育活動の展開 ○生徒の体力向上を図り生活習慣を改善する取組の充実
2 生徒理解を基盤とした生徒指導を展開する学校	○規律正しい生活が営まれる学校づくり ○安心・安全で思いやりあふれ、いじめを許さない学校づくり ○生徒がいつでも相談できる体制づくり ○生徒一人一人を大切に特別支援教育の充実
3 家庭・地域とのつながりを大切に開かれた学校	○情報を発信・受信し、保護者との連携を大切にする学校づくり ○地域の方々との協力を大切にする学校づくり
4 調和のとれた教育課程を創造・実践する学校	○年間を見通した計画の着実な実践と課題の改善
5 教職員が互いに学び合い、高め合う学校	○真の協働体制が根付いている職員集団づくり

## 2 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		取組状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重点①	確かな学びを育む授業づくりに努めている。	B	今年度行われた、全国学力学習状況調査(国語・数学・理科)の結果では、ほとんどの項目で全国平均を下回る結果であった。同日に行われた生徒質問紙の分析結果では、「1・2年生時の授業で、自分の考えを発表する場面では、考えがうまく伝わるように資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していました」の項目だけが全国数値と比較して否定的な回答が多かった。今年度の授業を振り返り、より一層の工夫・改善を図り、生徒が学ぶことに対してより意欲的になり、なおかつ学習内容が確実に定着するよう、研鑽に努め工夫を続ける必要がある。	A	A
学校関係者評価委員による意見		・教員の積極的に研修・研究に励む姿勢が、子どもの学びに結果的につながっていくと思います。子どもが興味をもって取り組める、記憶に残る学習をより一層工夫・改善されていくことに期待します。			
重点②	目標に沿った行事づくりがなされている。	B	今年度は、全校生徒が一堂に集う行事として円山競技場での陸上競技会、本校にて学校祭が実施された。保護者の参観も行き、一定の目標を達成することができた。しかし、バス代の高騰を初めとした諸般の事情により、各行事の構成の見直しをせざるを得ない状況となっている。子どもたちの成長を互いに実感し合える場面を検討・設定していくことは必要である。	A	A
学校関係者評価委員による意見		・お金をかけない行事設定、場所や内容の工夫を通して、子どもたちが生き生きと活動できる、また、互いの成長を実感し合える行事等の検討をお願いしたいです。			

重点 ③	体力向上を図る取組が行われている。	A	今年度、体育授業は今までの2時間続きから、1時間ずつにし、回数多く体育実技の時間確保を実践した。授業始まりのランニングの継続に補強運動を加えて体力向上を目指した。昼休みの体育館やグラウンド開放を実施して、授業や部活動以外でも運動できる時間・場所を作ることが重要であるとする。また、保健や家庭科の授業を通じての生活習慣の見直し、食事と健康の大切さを理解させる取組としての食指導を引き続き行っていく必要があるとする。	A	A
学校関係者評価委員による意見		・体力向上への工夫や取組をいろいろ考えられている様子が感じられるので、今後も小中連携しながら、継続していくことを期待します。また、体をつくる食指導も継続してほしいと思います。			
重点 ④	基本的な生活習慣（時間を守るなど）の定着を図る指導が行われている。	C	3年生は、今までの積み重ねにより決まりや時間に対する意識は高く、落ち着いた生活ができていた。1年生も、入学当初より中学校生活への全般的な取組が良く、生徒同士の声掛けなども生活係が中心になり継続的に行っている。2年生は、残念ながら時間や決まりの定着に時間がかかり現在に至っている。第2学年を中心に丁寧な指導・支援を行っているが、今後も継続して行う必要がある。	A	A
重点 ⑤	いじめを許さない、安心・安全な教育環境の中で、互いに支え合う経験を通して、思いやりの心と態度を育む指導が行われている。	B	学校は「人間関係のあり方」を学ぶ場であることを今後も強調し、豊かな心を育む上で全校体制での道徳授業を継続する。また、携帯・スマホ安全教室などを通して、人に不快の思いをさせない、正しいネット環境の利用の仕方を身に付けさせる。さらに旅行的行事や学校祭などの行事活動での協働を通して心の成長を促す。保護者との連携も細目に行っていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見		・学年ごとの発達段階を考慮しながら、今後もしっかりとした対応を希望します。根気のいる取組ではありますが、今後にも期待します。家庭の協力も必要な場面があると感じられますので、協力を求めながらご対応をお願いします。 ・いくつかの相談・アンケート活動で見守りをしているので、継続して子どもたちを見守っていただきたいです。また、SNSやネットへの着眼点も大切です。よいと思いますので継続をお願いします。			
重点 ⑥	生徒がいつでも相談できる体制ができている。	A	「先生方は、困り事悩み事に親身になって応じてくれる。」の生徒回答は94%と高い数値が見られ、保護者との連絡もこまめに行うことができている。今後とも、生徒を学校と保護者として連携して見守っていく体制を学校全体で整える必要がある。生徒が相談しやすい環境づくりをより一層の改善を加えながら生徒に寄り添える学校を目指したい。	A	A
重点 ⑦	個に応じた教育、支援に努めている。	B	特別な支援を必要とする場合は、校内学びの支援委員会を中心に個別の支援が必要な生徒の情報共有を図り、保護者に必要な情報の提供を行うとともに、必要な機関との連携を図り、全校態勢で支援にあたることとする。現在の支援室の在り方についても再考の余地がある。	A	A
学校関係者評価委員による意見		・家庭、地域、学校の三者一体となって子どもたちを見守りつつ、個に応じた支援の方法も検討を進めてほしいところです。 ・アンケートでは、子どもと保護者の回答に多少の乖離が見られるとのことなので、保護者理解へのアプローチも是非進めてください。今後も傾聴の姿勢をもって、相談しやすい環境づくりに取り組んでほしいと思います。			

重点 ⑧ ⑨	学校便りやHPなどの情報発信や家庭への連絡をきめ細かく行き、家庭との連携を図っている。	A	すぐーるによるお便り等の配信やアンケートの実施、個別の連絡等も有効に行われている。欠席連絡のみにとどまらず、日常的な連絡も双方向で行うこともできている。ホームページの随時更新や学校便りの発行も定期的に行えている。	A	A
	小学校との連携強化が図られている。	A	中学校教員による小学校への出前授業、小学校の授業参観交流、小学6年生の中学校の授業参観訪問、生徒会と児童会の「藤野ふるさと会議」による交流事業など、複数回の実務担当者会議を経た結果、連携強化することができた。今後も実務担当者間での様々な情報交換が重要であると考えられる。令和8年度以降もより一層の連携を図り、地域全体で子どもたちを見守り、教育していくという共通認識がより深まることを期待したい。	A	A
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も継続して学校の様子を発信してほしいと思っています。</li> <li>・小中連携を進めていることにより、小学校の子どもたちが安心して中学校へ進学できています。今後も9年間の一貫した教育として、小中の連携を深めていってほしいと思います。</li> </ul>			
重点 ⑩	教職員が互いに支えあいながら教育活動に従事している。	A	引き続き教職員間に一定以上の信頼関係が構築されるよう、相互に助け合い、メンター方式により若手教職員の育成を図るなど、チームとしての絆をより強めていくことが大切である。この力は、本校の教育活動を発展させる上で、我々教職員の原動力になり得るものと思われる。	A	A
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後もより一層の若手教員の育成、教職員の信頼関係の構築に努めていただき、本校の教育活動の充実を図るべく取り組んでいっていただきたいです。</li> </ul>			